

令和 6 年度 学校安全総合支援事業

交通安全に関する事業報告

常滑市



常滑市 交通安全に関する事業報告

○通学路安全推進会議

常滑市教育委員会

○交通安全に対する意識向上の取組

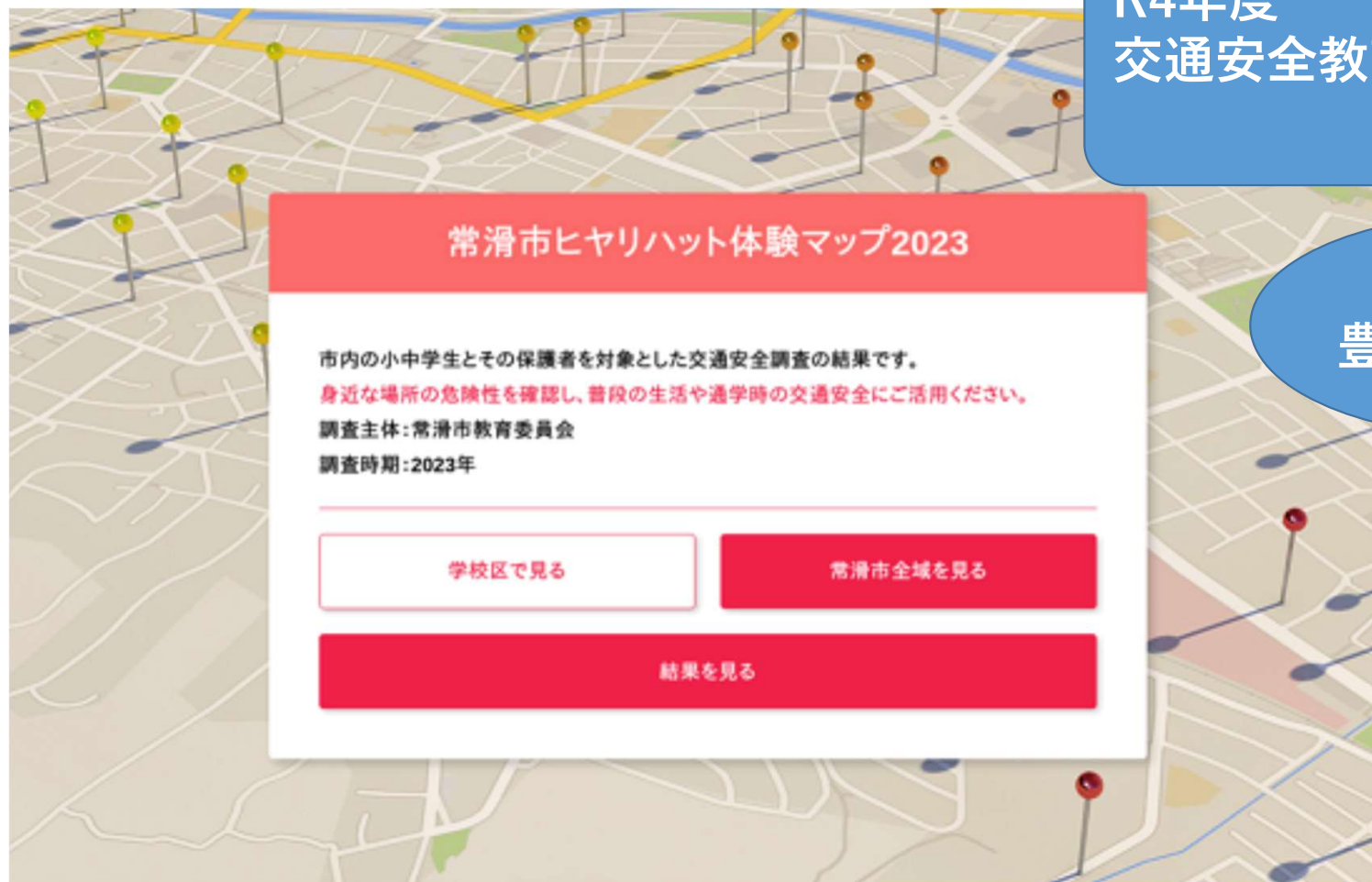
常滑市立小鈴谷小学校

○常滑市ヒヤリハット体験マップ°2023



常滑市 交通安全に関する事業報告

R4年度
交通安全教育アドバイザー
から紹介



先行事例
豊田市の取組



常滑市ヒヤリハット体験マップ2023

ヒヤリハット体験

交通事故に
遭いそうになった
危険を感じた
ヒヤッとした

常滑市
ヒヤリハット体験マップ2023

閉じる

ヒヤリ体験地点 ● [?]

危険エリア [?]
エリアの危険度を色で表示

大変危険
危険
やや危険
要注意

(こすがや) 小鈴谷小学校



道路形状
交差点の近く(交差点から約30メートル以内)

時間帯
夕方(16時~17時台)

状況
自てん車に乗っている時に、交差点やT字路で横からきた自動車と、ぶつかりそうになった(出会い頭)

令和5年度
豊田都市交通研究所と一般財団法人トヨタ・モビリティ基金
のご協力を得て作成

常滑市ヒヤリハット体験マップ2023 の作成にあたり

ヒヤリハット体験の情報提供のよびかけ

期 間：10月13日(金)～11月2日(木)

対 象：市内小中学校に通う 小学4～6年生、中学生、その保護者

回答 全世帯の27.7% 情報数 1,032件



常滑市で発生した交通事故の過去10年間の情報



豊田都市交通研究所による分析、ウェブマップ上への危険箇所提示



常滑市ヒヤリハット体験マップ2023

常滑市ヒヤリハット体験マップ2023

ヒヤリハット
体験マップは
ココから！



学校へ

通学路合同点検

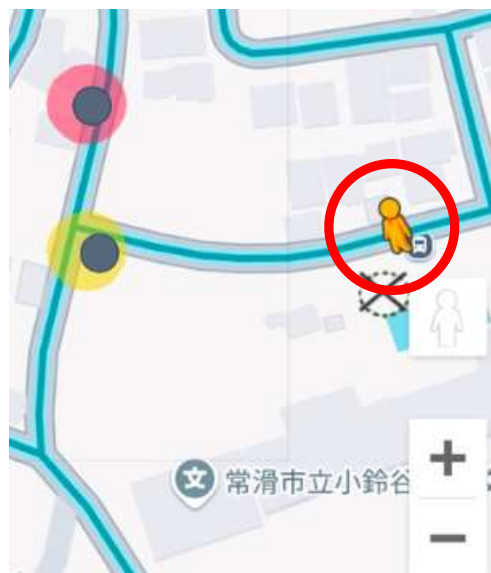
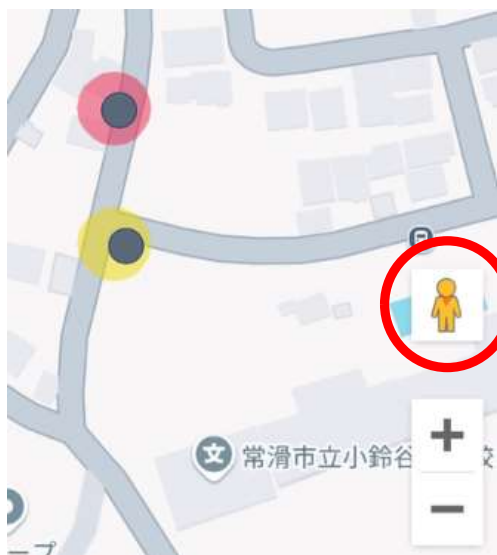
交通安全授業

今年度5月21日校務主任会で
使用の仕方、活用例を説明

保護者へ

家庭での交通安全教育

今年度7月19日に周知



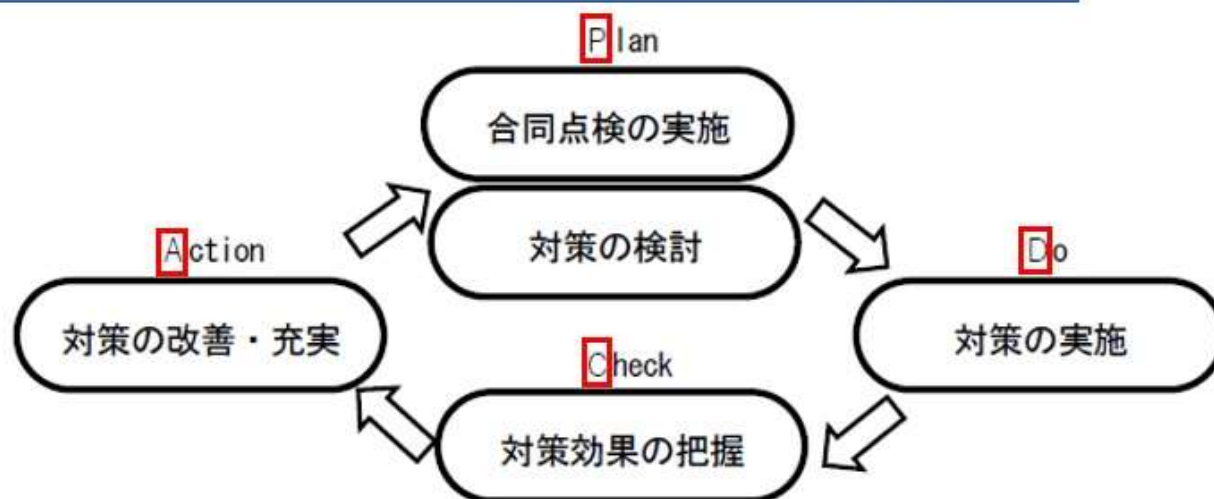
危険箇所を
具体的に
確認できる

通学路安全推進会議

常滑市通学路安全プログラム

平成25年に策定

通学路安全確保のためのPDCAサイクル



通学路安全推進会議

中学校区ごとに通学路の安全対策を協議



R 3
常滑

R 4
青海

R 5
鬼崎

R 6
南陵

〈委員〉

- ・ 大学教授（アドバイザー）
- ・ 県建設事務所道路整備担当
- ・ 市土木課・市民協働課
- ・ 常滑警察署交通課
- ・ 関係地区区長
- ・ P T A・子どもを守る会
- ・ 小中学校の安全教育担当者

〈事務局〉

- ・ 常滑市教育委員会

通学路安全推進会議

R 6
南陵中学校区



①学校からの報告

安全合同点検（ヒヤリハット体験マップも活用）

通学路の危険箇所をピックアップする。（5月～7月上旬）

②事前の現地調査（今年度は8月6日に実施）

アドバイザー・警察署・県建設事務所・
市担当課・事務局で現地に赴き、

現状の把握と安全対策の方向性について
確認・検討する。



③通学路安全推進会議（第1回）8月19日開催

事務局からの事前調査の報告＋学校からの説明⇒安全対策の検討



【学校から】

- ・ガソリンスタンド前に溝があり、自転車のタイヤがはまってしまうため危険
→ 転倒すれば事故になる可能性
- ・溝を避けようと、車道にはみ出して走行する生徒の姿がありとても危険

【現地調査時：アドバイザーから】

- ・自転車を降りて押し歩くよう指導しては



【南陵中PTA会長から】

- ・自転車を降りてとなると、生徒が詰まって滞留してしまい、危険である

③通学路安全推進会議（第1回）8月19日開催

事前調査の報告をもとに、安全対策について検討する。

【アドバイザーから】

- 車のドライバーへの注意喚起として
- ・路面にピクトグラムなどを引くことも一つの方法



【道路管理者から】

- ・どのようなサインがよいか検討していきたい



会議後に早速

地区の保護者（PTA会長・子どもを守る会代表）、
道路管理者、事務局で具体的な方針の話し合い



④道路管理者の対応

会議を受け、道路管理者が安全対策を講じる。

【対策】 自転車のピクトグラムと矢羽根を路面に施工



目的：車と自転車への注意喚起や意識づけの促進

⑤通学路安全推進会議（第2回）12月17日開催

講じた対策の効果の把握や対策の改善を図る。

【学校から】

- ・ピクトグラムを矢羽根を設置してもらったことを受け、生徒にピクトグラムと矢羽根の上を走行するよう指導
- ・9割の自動車がピクトグラムと矢羽根を踏まないように中央線寄りに走るようになっている

対策の有効性が確認された

【アドバイザーから】

中学生自身が意識すること

- ・自転車の安全な運転、通行継続した働きかけ

ハード面 道路環境の改善etc



ソフト面 こどものもつ力の向上etc

⑤通学路安全推進会議（第2回）12月17日開催

過去に講じた場所についてあらためて話題に。

平成28年度

令和2年度

令和6年度



【平成28年度】

歩道橋を撤去して、横断歩道を設置するという見解

【令和2年度】

「交差点注意」の文字を路面に施工



【令和6年度 常滑警察から】

横断歩道設置の要望を続けているが実現に至っていない



今後も困難箇所として挙がる可能性

⑤通学路安全推進会議（第2回）12月17日開催

今後も困難箇所として挙がる可能性のある箇所

【アドバイザーから】**横断指導線の提案**

【県道路管理者より】

県内では事例がない

自動車に停止義務がない



新たな危険が生じないだろうか？

【令和6年度対策】

外側線の引き直し

※ドライバー・自転車の
視認強化へ



⑤通学路安全推進会議（第2回）12月17日開催

横断指導線による対策について



【県道路管理者より】

「歩行者横断指導線」

施工基準が「ある」

「自転車横断指導線」

施工基準が「ない」



【事務局と学校で情報共有・協議】

生徒へ横断時の安全行動について注意喚起



ハード面での対策の限界

通学路安全推進会議の成果

- 学校と保護者・警察・道路管理者・地域・地域代表等、関係者が現状や対策案に意見を出し合うことで、**合意形成を図る**ことができ、アドバイザーからの助言を加え**具体的な対策**を講じることができた。
- 過去の対策箇所について**振り返る**場面をもったことで現在の通学状況について地域の声を伺うことによって、**対策の効果の検証**ができた。

通学路安全推進会議の課題

△対策困難箇所としてあがった箇所とその対策の取組や合同点検結果を保護者や地域に向け十分に周知できていない状況がある。

→**児童生徒を取り巻く大人へ届く情報発信**を丁寧に確実に行うこと

△児童生徒へ向けての交通安全意識向上の取組だけでなく、**保護者・地域を巻き込んだ取組**を展開していくこと

当たり前

子どもたちの登下校の安全を確保する取組

継続していく

こどもたちを取り巻く大人たちの
「顔の見える関係」

通学路交通安全プログラムに基づく通学路推進会議

常滑市 交通安全に関する事業報告

○通学路安全推進会議

常滑市教育委員会

○交通安全に対する意識向上の取組

常滑市立小鈴谷小学校

○常滑市ヒヤリハット体験マップ2023



常滑市交通安全に関する事業報告



常滑市立小鈴谷小学校

小鈴谷小学校の交通安全教育の取組について

- 1．本校の紹介
- 2．例年継続して取り組んでいる交通安全教育
- 3．交通安全教育のブラッシュアップを目指して
- 4．新たな交通安全教育の取組（6年生の実践）
- 5．成果と今後の課題

1. 本校の紹介



盛田 命祺



溝口 幹



盛田 善平



石田 退三

鈴溪
義塾

「小さな学校の大きな人づくり」

2. 例年継続して取り組んでいる交通安全教育

(1) 朝の交通安全活動



(2) 通学団会



(3) 下校指導



(4) 交通訓練



3. 交通安全教育のブラッシュアップを目指して

6年生の実態の把握

○登校時の班員への声かけ

△危険予測や安全行動への意識が低い



【ねらい】

「危険予測行動や安全行動への意識を高め、自ら主体的に安全な行動をしようとする態度の育成」

4. 新たな交通安全教育の取組（6年生の実践）

第1時【ねらい】

「常滑市ヒヤリハット体験マップ2023」を基に、危険箇所を見つける視点を持ち、安全を意識して行動することの大切さに気付くことができる。

第2時【ねらい】

「小鈴谷小ヒヤリハットマップ」を作成して気付いた地域の危険箇所について、保護者に知らせる資料を作成することができる。

第3時【ねらい】

保護者と「小鈴谷小ヒヤリハットマップ」を作成し、大人目線や運転手目線での危険箇所を知ること、今後の児童の安全意識を高める。

第4時【ねらい】

地域の危険箇所について他学年や地域の方々に自分事として捉えてもらえるように伝えたい内容を考えることができる。

<第1時>

【ねらい】

「常滑市ヒヤリハット体験マップ2023」を基に、危険箇所を見つける視点を持ち、安全を意識して行動することの大切さに気付くことができる



つかむ段階①

ハインリッヒの法則



つかむ段階②

常滑市ヒヤリハット体験マップ2023

市内の小中学生とその保護者を対象とした交通安全調査の結果です。

身近な場所の危険性を確認し、普段の生活や通学時の交通安全にご活用ください。

調査主体:常滑市教育委員会

調査時期:2023年

学校区で見る

常滑市全域を見る

結果を見る



つかむ段階③

【危険を見つけるための視点】

- ①道路に問題がある
- ②歩行者に問題がある
- ③運転手に問題がある

追究する段階①



追究する段階②

中村慎佑 先生 + 22・1 日

小鈴谷小ヒヤリハットマップ

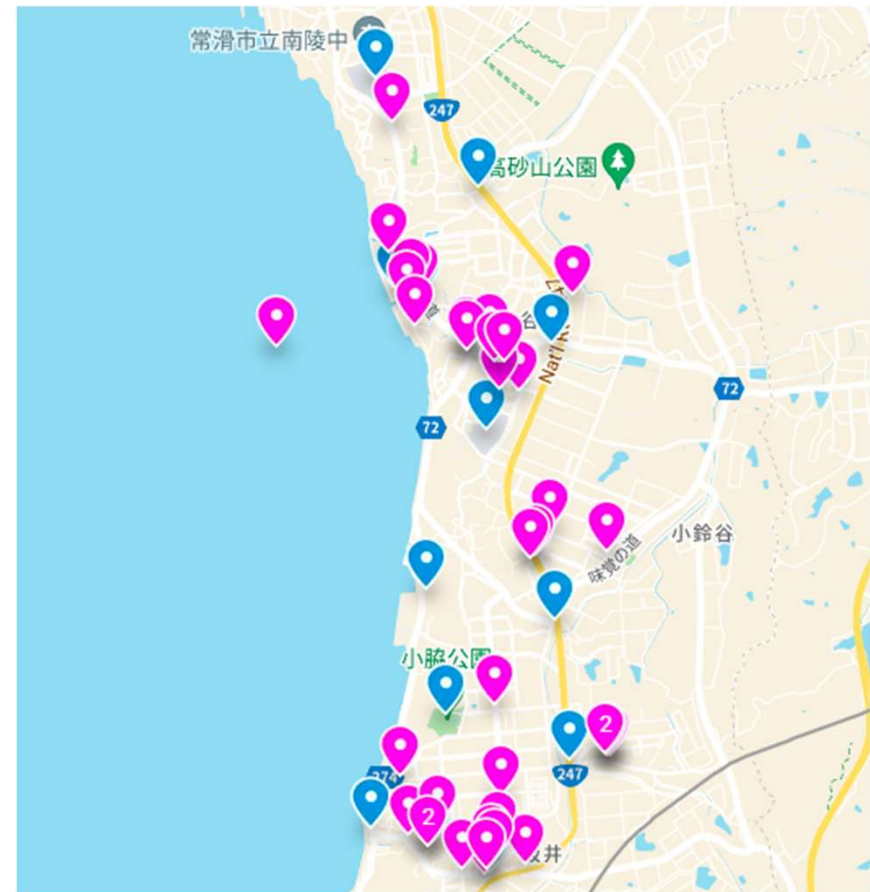
日本、愛知県常滑市
小鈴谷小学校

日本
小鈴谷の住宅につながる橋

日本、愛知県常滑市
まるわかクリーニング

日本、愛知県
広目の交差点

日本、愛知県
広目ごみステーション



追究する段階③

【危険を見つけるための視点】

①道路に問題がある



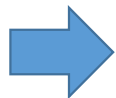
- ・カーブが多い
- ・歩道と車道の境がない

②歩行者に問題がある



- ・死角からの飛び出し
- ・ルールを守らない

③運転手に問題がある



- ・車からみて死角
- ・スピードの出し過ぎ

まとめる段階

【ワークシートより】

- ・ ヒヤリハットな場所を探すとたくさん見つかった。
- ・ 歩行者や運転手がルールを守ればよいわけではなく道路の問題もある。それを踏まえて気を付ける。
- ・ 歩行者視点だけでなく、運転手視点からも考える。

<第2時>

【ねらい】

「小鈴谷小ヒヤリハットマップ」を作成して気付いた地域の危険箇所について、保護者に知らせる資料を作成することができる

3はん

〒479-0807 愛知県常滑市 小鈴谷行田

①どんな道路か
ここは、小脇公園に行くときゅうにある十字路です。木で車が見えず、信号もないし、車通りもそこそこある場所で、危険です。

②どんなことに気をつけたいか

- ・止まれの所でしっかり止まる。
- ・左右の確認をわすれない。
- ・スピードをだしすぎない。

地図

道路の様子

4はん

①どんな道路か

- ・死角があるしスピードを出す車が多い
- ・自転車でスピードを出す人がいるから、車とぶつりそうになる。

地図

②どんなことに気をつけたいか

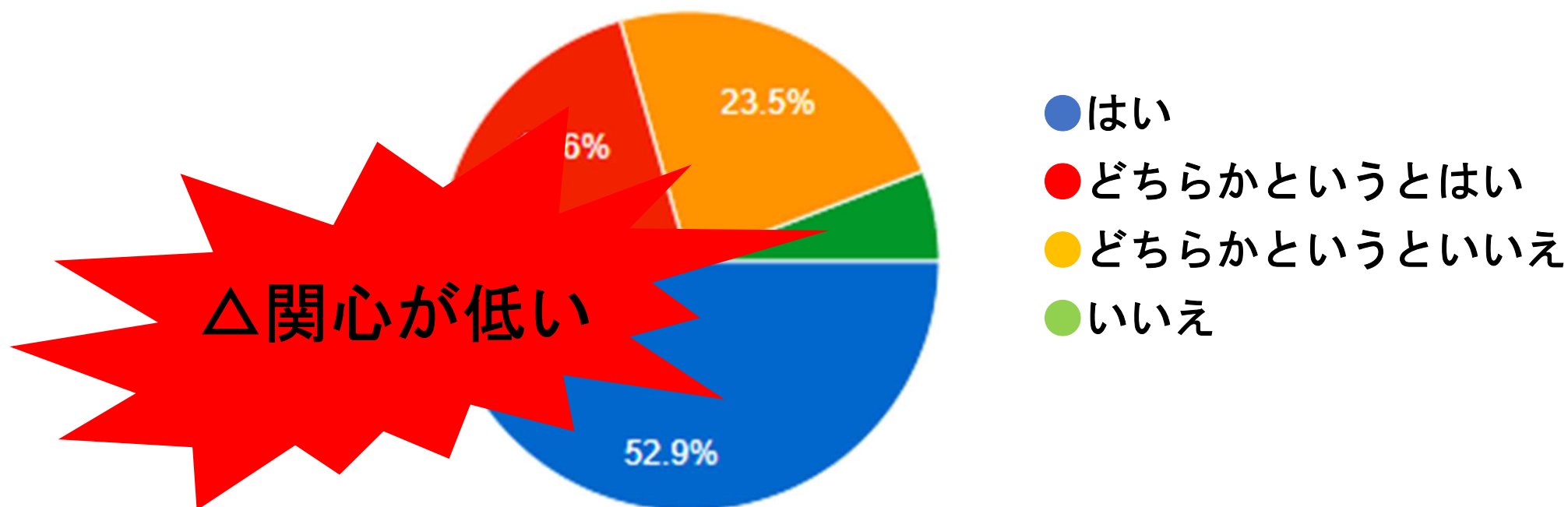
- ・ちゃんと周りを見てからわたる
- ・横断歩道ギリギリで急ブレーキしない
- ・自転車でスピードを出さない
- ・ちゃんと止まる

道路の様子

<第3時に向けて>

【保護者向け事前アンケート①】

ご家庭で自転車の安全な乗り方について、
お子さんと話をすることがありますか。



＜第3時に向けて＞

【保護者向け事前アンケート②】

自転車の安全な乗り方について、

お子さんにどのような話をされたか。

- ・ 横断歩道は自転車から降りて押す、信号のない交差点では車が来る可能性がある
- ・ 田舎道で車があまり通らないからこそ、余計に注意をする
- ・ 坂道が続くところでは、スピードを出さないこと、停止して確認する

<第3時>

【ねらい】

保護者と「小鈴谷小ヒヤリハットマップ」を作成し、大人目線や運転手目線での危険箇所を知ること
で、今後の児童の安全意識を高める

9月21日(土)
学校公開日
2 時間目



つかむ段階



追究する段階





まとめる段階

【ワークシートより】

- ・ 運転手からの視点の話を聞けてよかった。
- ・ 自分としては危ないと感じていない箇所でも、運転手からしたら危ないと指摘され、驚いた。
- ・ 自転車に乗っている人の視点と、自動車に乗っている人の視点の違いを理解しながら、自転車に乗りたい。

【交通安全だより第1号】

FUN!

常滑市立小鈴谷小学校
6年生学級だより 交通安全号
令和6年10月1日



ヒヤリハットマップをつくろう(6/18)



小鈴谷小の近くの道路でも、大きな事故は起きています。交通事故に遭わないために、小鈴谷小校区の「ヒヤリハット」な場所を探し、「小鈴谷小ヒヤリハットマップ」を作成しました。道路の特徴を考えたり、歩行者・運転手の視点から考えたりして、地図上の危険な場所にピンを差します。「この場所でひかれそうになって怖かった」「『止まれ』なのに、止まってくれない車がいた」など、実体験に基づいた意見もた

気をつけたい場所についてプレゼンテーションにまとめよう(9/20)

のグループから意見をもらいました。最後に、授業公開で保護者の方へどう説明するか準備を進めました。



ヒヤリハットマップをアップデートしよう(9/21)



りやすさの点から「すごいね」など、すてきな感想もたくさんいただきました。

★9月21日の授業の振り返り

☆自転車に乗るときに気を付けるべきこと

- ・下り坂はブレーキをかけてスピードを落とす。
- ・狭い道で車が来たら、必ず止まる。

9/21の授業の振り返り

- ・登校時間は通勤時間とも重なるので急いでいる車が多い。
- ・小鈴公園の近くの道は車のスピードが出やすく、見通しも悪い。

☆その他

- ・側溝に蓋をつけたり、ガードレールをつくったりしてほしい。

★子どもたちへのアドバイス、ありがとうございました！！

★アンケートにご協力ください

授業を終え、交通安全に関する事後アンケートを実施します。下記の二次元コードより回答をお願いします。ご多忙の

アンケートにご協力ください



【アンケート】 【プレゼンテーション】

<第3時を終えて>

【保護者向け事後アンケート①】

ご家庭で自転車の安全な乗り方について、
お子さんと話をすることがありますか

(事前の結果) 50%

→ (事後の結果) 80%

【保護者向け事後アンケート②】

交通安全だよりの「授業のまとめ」の感想

- ・ 身近な道の危険な場所を調べていて良かった。
- ・ 日常生活で身の回りの危険な場所を様々な視点から見つけることができ、改善策を考えることが出来ていた。
- ・ 子ども達がどう説明したら分かりやすいか、と考えてくれていたのが伝わった。こちらの意見も一生懸命メモをし、聞く姿が頼もしかった

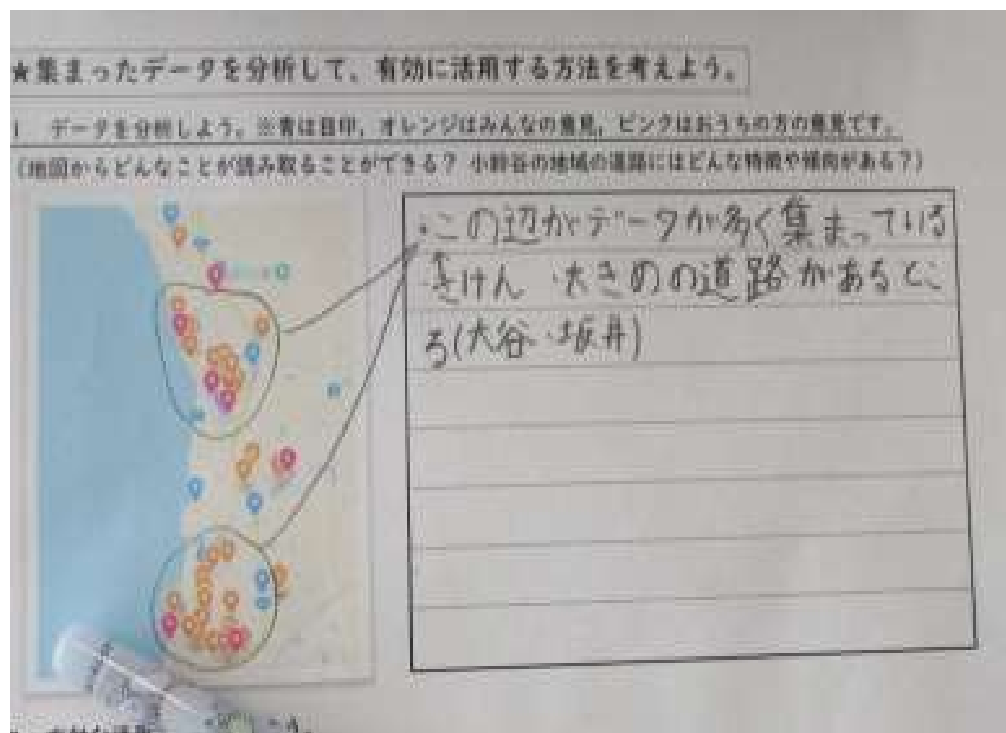
＜第4時＞

【ねらい】

地域の危険箇所について他学年や地域の方々に自分事として捉えてもらえるように伝えたい内容を考えることができる



つかむ段階



追究する段階①

【他学年や地域の方々に伝えたい内容】

- ・ 車や自転車に乗っていて見えづらいところはゆっくり走行する。
- ・ 道が細かったり狭かったりしたらスピードを落とす。
- ・ まだよく知られていない死角がある道やヒヤリハットが潜んでいる場所があるから知ってほしい。

追究する段階②

【伝える方法】

- ・ 全校児童に向けて、朝会で、歩行者目線で気を付けることを発表する。
- ・ 地域の人に向けて、区の掲示板や回覧板で知らせる。
- ・ お祭りや盆踊りなど、人が多く集まるところで呼びかける。

まとめる段階

【ワークシートより】

学校の全員に朝会のスライドショーで伝えたいと思った。
歩行者側の人やドライバーの人たちに(先生・保護者)
危険なことなど、気を付けてほしいことを話す。
これからは、家族や地域の方、学校の児童にわかりやすく
説明していきたいと思った。

ピンがたくさんささっている所にすんでいる。よく行く人に、学校の朝会や
地いきのイベントなどで伝える、呼びかけたい。
本のビヤマップを全クラスルームに配って、完にんしてほしい。例えば
これを学んだ「六年生」が授業をするなど、

保護者や地域の人たちに伝えるときは、いろいろな
方法で、できるだけ、ドライバー目線のことや、ビヤハ
トマップなどの宣伝をしたい。そして、そこで広めたことを
子どもたちに伝えたい。学校で伝えるときは、まだど
こか危険があまり分からない低学年を中心に伝えたい。

< 学びを広める >

【(1) 2 学期通学団会】

1～5年生の交通安全意識・
自分の身を守る力を高める



どこが あぶないでしょう？



< 学びを広める >

【(2) 6年生児童の感想】

- ・ 自分たちで調べた場所を通るときに思い出し、死角・交通量の多いところなどで特に気をつけたい。これからも危ないところを見つけて色々な人と共有したい。
- ・ もっと知ってもらえば少しでも事故が減り、地域の安全にもつながる。もっと様々な方法で伝えたほうが市民のためになる。新たにこれを知った市民が新しく危ないところを付け足せば、さらに事故を減らしていけると思う。

【交通安全だより第2号】

②みんなの安全のために（ヒヤリハットクイズ）



これまでの交通安全についての学びを生かして、通学団会で小鈴谷校区のヒヤリハットな場所について紹介しました。通学団ごとに「ヒヤリハットクイズ」を作成し、その場所にはどんな危険があるのかをみんなで考えました。「車通りが多いから」「道が狭いから」「死角になっているから」など、さまざまな視点から意見が出ました。学校全体で交通安全について意識を高める大きなきっかけになりました。

他学年の子が交通安全についてじっくり考えることができたのは、みなさんの努力のたまものだと思います。「ヒヤリハットマップ」の作成に始まり、おうちの方へのプレゼンテーション、集めたデータの分析、今回の「ヒヤリハットクイズ」と、一つ一つの学びにまっすぐに向き合ったから、今回の成果が生まれたのだと思います。

この学びの最後は自分です。分かったことや考えたことの一つ一つを吸収して、登下校も、友達と遊ぶときも、いつか車を運転する日にも、「ヒヤリハット」の意識をもって生活してもらえるといいなと思います。

5. 成果と今後の課題

【(1) 成果】

- ・ 保護者参加型の授業を行うことで、車の運転手や大人の視点での危険箇所について理解を深めることができた。
- ・ 地区ごとに、みんなの安全のためにどんなことを伝えたらよいかを話し合うことで、それぞれの地区に向けて発信したい内容を分析し、まとめることができた。
- ・ 授業を通して、安全行動への意識を高め、自らが主体的に安全な行動をとりながら、周りにも伝えようとする意識を高めることができた。

5. 成果と今後の課題

【(2) 課題】

- 「ヒヤリ」体験がない児童に対して、いかに自分事として捉えさせることができるか。
- 児童の交通安全意識が薄れてしまわないような交通安全教育の仕組み作りを推し進める必要がある。
※継続した取組→実践したことのデータの蓄積→情報発信
- 全校児童一人一人の、安全行動への意識を高めるための継続的な交通安全教育の実施や交通安全指導を充実させること。

ご清聴ありがとうございました



常滑市



常滑市立小鈴谷小学校